



われわれは
何を失ったのか

焼畑と日本の
基層文化

2008年10月1日(水) 14:00-17:00

地球研・講演室

講師：姫田忠義氏 (民族文化映像研究所所長)

申込不要
聴講無料

われわれは何を失ったのか 焼畑と日本の基層文化

昨秋はじめて椿山(つばやま)を訪ねた。岬々たる四国山地、その最奥に位置する山村だ。急峻な斜面に壁のように幾重にも石垣が連なり、その上に身を寄せ合うようにして家々がたたずむ。椿山は雑穀主体の焼畑を営々と続けてきたことで知られる。焼畑を中心としたその生活の全貌は、姫田忠義氏率いる民族文化映像研究所によってフィルムに収められ、今でも見ることができる。「今でも」というのは、現在人口十数人の椿山では焼畑どころかもはやかつてのような日常の営みそのものが失われてしまったからだ。

だが、はたして本当に何が失われたのだろうか。

たしかに椿山にかぎらず日本各地で風土に根ざした生活文化が消えゆき、土地ならではの暮らしの姿を見ることはまれである。しかし、それを何が「失われた」と表すのが適切なのだろうか。姫田氏が映像という手法で追及してこられた「基層文化」とは、氏の言葉に従えば「激動する世のなかで、しかもなお脈々と底流するもの」である(『忘れられた日本の文化』)。いいかえると表層的な変化を越えて人々のうちに脈打ちつづける生活文化、暮らしの“かたち”ということだろう。椿山で出会ったお年寄から都市部に暮らす息子さんのことをうかがった。週末ごとに村に帰ってくるという。この息子さんとはのちに椿山の現在の姿を追った姫田氏のフィルムの中で出会うことになった。都市に暮らす者らしく垢ぬけて朗らかな彼の姿をスクリーン上に見つつ、基層文化とはこういうことかと妙に納得したのを覚えている。現在の椿山にはかつてのように焼畑にいそしむ人々の姿はない。しかし、そこで営まれた日常の記憶、その痕跡は急斜面に累々と積み上げられた石垣にだけ残るものではない。都市に暮らす次代の青年のうちにも姿を変えて息づいている。基層文化とはそういうものなのかもしれない。

そうはいうものの、多くの人々にとってこうした基層文化そのものがこの数十年のあいだに失われてきたことはまちがいない。それほど時代の変化は激しかった。だが、そうであればこそ、とあえて思う。ともすると現代の私たちは何かを失った存在として自分を考えるくせがついていやすいか。失うも何も、もはやはじめから何もない時代の子であるくせに、だ。何かを「失った」のではなく、何も「ない」。それが現代という時代ではないか。われわれは何を失ったのか、そもそも失うようなものを持っているのか。何もかも失ってしまった現代社会にとって文化の「基層」とは何を意味するのか。半世紀近くにわたりわが国の基層文化を撮り続けてきた姫田忠義氏とともに考えたいと思います。

(環境思想セミナー担当: 鞍田崇)

プログラム

14:00 開会

14:10 DVD上映「コガヤとともに」



*この作品は下記の映画を編集したものです。
民族文化映像研究所 作品 No.99
1996年/カラー/54分/16mm
岐阜県白川村教育委員会委嘱
1998年度キネマ旬報文化映画ベストテン5位

14:50 休憩

15:00 講演「焼畑と日本の基層文化」

17:00 閉会

【映像解説・講師】 姫田忠義 HIMEDA Tadayoshi

1928年神戸生まれ。48年旧制神戸高商(現兵庫県立大)卒。54年に上京、新劇活動、テレビのシナリオライターのかたわら民俗学者宮本常一に師事し、61年から映像による民族文化の記録作業をはじめ、76年民族文化映像研究所創立。以来、同研究所長。徹底したフィールドワークを基礎とするその活動は、日本のみならず海外からも「映像人類学」として評価されている。84年日本映画ペンクラブ賞団体受賞。89年フランス芸術文学勲章オフィシエール受勲。98年日本ファッション協会第7回日本生活大賞個人賞受賞。2000年文化財保護功労者として文部大臣より団体受賞。06年伝統文化ポラール賞優秀賞。07年日本建築学会文化賞受賞。

代表作に、「日本の記録映画のひとつの金字塔」(映画評論家・佐藤忠男)と評される『越後奥三面』二部作、アイヌの自然観・生命観が凝縮した最大儀礼の一部始終を収めた『イオマンテ-熊おくり-』、焼畑とともに豊かな生活の知恵と技術を伝承してきた山村を記録した『椿山-焼畑に生きる-』(1977年度キネマ旬報文化映画ベストテン2位)など。

日時：2008年10月1日(水) 14:00-17:00

会場：総合地球環境学研究所(地球研) 講演室

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山475-4

申込不要・聴講無料

主催：大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所
文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」
(リーダー：佐藤洋一郎・地球研教授)

<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project>

【アクセス】

■JR・近鉄・阪急沿線より
京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。
国際会館駅バスターミナル2番乗場から京都バス40系統
(京都産業大学ゆき)もしくは50系統(市原ゆき)にて(約10分)、「地球研前」下車スグ。

■京阪沿線より
出町柳駅で叡山電鉄鞍馬線に乗換え、「京都精華大前」
もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

■車・タクシーでお越しの方は
国際会館より府道40号線で二軒茶屋方面へ。



関連企画

アチック・フォーラム 京都円山 吉水
民映研映画をみて
姫田忠義と話し合う会

10月2日(木) 14:00~16:00

会場：お宿「吉水」(京都・円山公園)
会費：1500円

民族文化映像研究所制作フィルムの上映と姫田氏の講演。上映作品は、岐阜県白川郷の合掌民家移築再建の映像記録「合掌造り民家はいかに生まれるか」。

人と自然：環境思想セミナー

～今後の予定～

第16回/11月20日(木)

「気配の痕跡：
展示デザインと空間の記憶」
木下史青氏
(東京国立博物館学芸企画部企画課
デザイン室長)

お問い合わせ

環境思想セミナー担当 鞍田崇(研究員)

075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyu.ac.jp

<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project/thought.html>